

もや 舫う移民——紀州、房州、モンレーを結ぶ海の物語

「舫い」とは、船をつなぎ留めることを指し、共同作業や協力をも意味する言葉です。
その底流には、人と人とのつながりや助け合いの精神が含まれます。

…… 太平洋を渡ったアワビ海士たち ……

1897年、小谷源之助・仲治郎兄弟をリーダーとする房総アワビ漁師らは、千葉県安房地域から米国モンレー地域へ渡りました。寒流のカリフォルニア海流でヘルメット型の器械式潜水を導入し、アワビ漁に成功しました。資産家A・M・アーレンとの共同事業で缶詰会社を興し、日本人排斥が高まるなかでも特別に事業継続が認められていました。風光明媚な地に立つコダニ・ゲストハウスには尾崎行雄や竹久夢二などの政治家や文人墨客が滞在し、皇族らも立ち寄り、日米親善の架け橋となりました。小谷家は、源之助と姻戚にあたる小圃千浦や、和歌山県出身のヘンリー杉本などアメリカで活躍した日系人画家たちとも親交を深めています。

戦争を経てこの歴史は忘れられていましたが、1994年、アメリカ社会に貢献した日本人として小谷源之助が顕彰され、彼らが住んでいた土地はカリフォルニア州立自然保護区内で「コダニ・ビレッジ」と正式に命名されました。日米の国旗とUSAの文字が染められた「万祝」という漁師の晴れ着は、房州とモンレーの人々が育んだ友情の証として今も大切に残されています。

一方、和歌山県紀南地域からも多くの漁民が渡米し、ロサンゼルスを中心に活躍したことが知られています。今回、日米の多様なミュージアムが協働し、移民史・水産史・美術史をテーマに調査や交流が行われました。黒潮でつながる房総半島と紀伊半島、そして太平洋をはさんで向かい合うモンレー半島の人々が、海を越えて交差し、共生した姿が、生き生きと浮かび上がってきました。現代の交流につながる壮大な物語をお楽しみください。



器械潜水によるアワビ漁 安田正行氏所蔵

- 【目次】
2. 奥村一郎：舫う移民たちの紡ぐ物語へ 挨拶にかえて
 4. ティム・トーマス：モンレー・アワビ物語～太平洋にかかる橋
 6. エヴァン・コダニ：日系四世の回想～先祖の故郷・房州をたずねて
 7. クリステン・ハヤシ：異なる岸边から見たカリフォルニア海岸
 8. 家系図／年表
 12. 大場俊雄：房州からカリフォルニアへ渡ったアワビ潜水夫らを調べに来房した
キース・W・コックスとチウラ・Z・オバタ
 16. 櫻井敬人：モンレーの紀州人
 20. 山口正明：太平洋を渡った南房総のアワビ漁師たち～アメリカはこの先に…！
 24. 鈴木政和：外務省の渡航記録調査と集落の聞き取り
 28. 青木加苗：芸術家コロニーのモンレーで日本人画家は何を見たか
 32. 池田恵美子：絵画から読みとく「館山まるごと博物館」～青木繁と倉田白羊
 34. 粕谷智美：アワビ漁師移民の古文書レスキューと調査活動
 38. 愛沢伸雄：小谷源之助・仲治郎兄弟をとりまく人びとと渡米の背景
 47. ALBUM